

大学院派遣研修での研究内容の概要

所 属 校	江戸川区立篠崎中学校	氏 名	大河原 昭広
派遣大学院	東京学芸大学	専攻・コース	学校教育専攻
研究テーマ	基本的な生活習慣と学力との関連性についての調査研究 ～中学生を対象として～		
<p>1 研究の目的</p> <p>校内暴力、不登校、いじめ、そして昨今では学級崩壊と、教育界を揺るがす問題はあとを絶たない。また、問題行動の低年齢化やその質の変容も問題視されている。我々現場の教師は、こうした問題行動の主たる要因を親の養育態度としがちであるが、問題はそれほど単純ではない。親の養育態度を含め、学校、社会などいくつかの要因が絡み合っ、そうした問題が引き起こされている。更に、学業不振が原因となり、その欲求不満のはけ口に校内暴力を始め、授業妨害や授業放棄などの問題行動を起こすケースもきわめて多いことに気づく。こうした問題行動を解決するためには、一人一人の子どもたちに確かな学力を身につけさせてあげることが急務であり、不可欠である。学力向上を図るためには、「学習内容」「学習時間」といった学習面での充実はもとより、集中力、忍耐力、継続力などといった力も必要となってくる。そこで本研究は、学力を向上するためにはどのような力が必要であり大切なのか、日常生活においてどのような工夫をしていけば確かな学力を身につけられるのか、学力を左右する潜在的な力とは何かを具体的に探ることを目的とした。</p> <p>2 研究内容</p> <p>毎日の個人における快適な生活のために不可欠な睡眠、食事、排泄、着脱衣、清潔といわれる基本的な生活習慣を始め、集団生活や社会生活を円滑に営み上で必要な礼儀作法や規則正しい生活、家庭における学習習慣や親子関係などといったことに関する50の質問を5件法により実施することとした。具体的には「起床・就寝」や「睡眠時間」などの睡眠に関する習慣、「朝食」「孤食」「好き嫌い」などの食生活に関する習慣、「片付け」や「整理整頓」など着脱衣に関する習慣、「洗顔・歯磨き」や「入浴」などの清潔に関する習慣を始めとして、学校生活、日常生活交友関係に至るまでの調査である。対象については、都内7校の公立中学校1年生から3年生まで、総数1361名である。7校の学校については、東はE区から西はH市まで、ほぼ同一間隔に位置する学校を抽出した。また、実施期間については、2003年7月7日～11日の5日間に、各校1名、計7名の教員によって実施された。なお、男女の比率については、男子約52%、女子約48%である。</p>			

3 研究成果と課題

我々は概して、勉強量の増加＝成績の向上という単純な方程式を描きがちであるが仮にそうだとすると、多量の宿題を出し、学習塾に通わせるなどして勉強の量を増やすだけで、どの子ども学力の向上が望めるはずである。しかし、本調査においても、塾や学習時間が、学力にさほどの影響力を持っていないことが示された。一般的には、子どもの身体の欠陥、性格や習慣、知能、親の学力に対する考え方や学習習慣のさせ方、教師の指導方法や教師と子ども人間関係などにその原因を求めるが、今回の調査においては以下の8項目が学力と深い関係にあることが示された。

- (1) 進学志向が高いこと
- (2) 忘れ物や紛失物が少ないこと
- (3) 毎朝朝食をとること
- (4) 週当たりの家庭学習の日数が多いこと
- (5) 家の手伝いをしないこと及び身の回りや部屋の片づけをしないこと
- (6) 親から勉強のことでいろいろ言われないこと
- (7) 学校が楽しいこと
- (8) 月の小遣いが少ないこと

今回の「基本的生活習慣と学力」との調査結果をもとに、さらに基本的生活習慣を多岐にわたり調査し、学力との相関を分析していく。そして、一人一人の子どもたちが、高い学力としっかりとした基本的生活習慣を身につけられるよう、基本的生活習慣と学力との間に因果関係を見いだしていくことが今後の課題である。

所 属 校	江戸川区立篠崎中学校	氏 名	大河原 昭広
派遣大学院	東京学芸大学	専攻・コース	学校教育専攻
研究テーマ	基本的な生活習慣と学力との関連性についての調査研究 ～中学生を対象として～		
1 所 属 校 の 成 果 活 用	<p>研究結果として明らかとなった学力と関わりのある8つの基本的な生活習慣の項目、すなわち（1）進学志向が高いこと （2）忘れ物や紛失物が少ないこと （3）毎朝食事をとること （4）週あたりの家庭学習の日数が多いこと （5）家の手伝いをしないこと及び身の回りや部屋の片づけをしないこと （6）親から勉強のことでいろいろ言われないこと （7）学校が楽しいこと （8）月の小遣いが少ないこと について、保護者、生徒及び教員に 保護者会、学年集会、道徳及び学活時などに啓発を図っている。特に保護者には、朝食の必要性を訴え、生徒の朝食摂取率も次第に増えつつある実態がある。</p> <p>また、授業においては、継続することの大切さを訴え、ペア・ワークやスキットを毎回行い、話す力や聞く力を格段に進歩させている。</p>		
2 委 員 会 ・ 研 修 会 で の 成 果 活 用	<p>道徳教育講座において、「学力を高める基本的な生活習慣とは」の演題のもと、保護者・地域住民を対象に基本的な生活習慣の大切さを説いた。</p> <p>また、校内研修会においては、大学1年目には中間発表として「他校の生徒と本校の生徒との基本的な生活習慣の相違点」、また2年目においては「学力と基本的な生活習慣との相関関係」のタイトルのもと、所属職員に情報の共有と意識の向上を図った。</p>		

<p>3 成 果 を 生 か し た 研 究 授 業 等</p>	<p>平成17年7月初旬に中高連携教育及び大学院派遣研修成果授業の一環として、近隣の高等学校教諭とともに、検証授業を行った。「聞く力・話す力を身につける指導法」のタイトルのもと、数ヶ月継続して行ってきたペア・ワークやスキットを取り入れ、生徒の様子をビデオ撮影し、全員で良い点悪い点を討論するというものであった。こうした試みを数回継続して行うことにより「聞く力・話す力」が格段と向上した。</p> <p>また、年間を通して、「書く力・読む力」を身につけるため、他校との英語の文通を行い、向上を図った。さらに、ビデオレターなどを取り入れたことにより英語に対する興味・関心を持つ生徒が増え、「書く力・読む力」を向上させることが出来た。</p>
<p>4 今 後 の 活 用 計 画 等</p>	<p>(1) 本研究の成果を校内研修会などで報告し、情報を共有することにより、教師の専門性の向上を図り、生徒の指導に役立てられるようにする。</p> <p>(2) 本研究をさらに深化・発展させるために、一斉学力テストと基本的生活習慣との相関を詳細に分析し、積極的に学校教育の向上に寄与していく。</p> <p>(3) 基本的生活習慣のより一層の定着を図るため、保護者への協力・啓発を促し、生徒一人一人に確かな学力を身につけさせる。</p>